

車いすでも着やすい服

アパレル大手が発表



ユニバーサルデザインの服を着た武藤代表理事(中央)

アパレル大手のT S Iホールディングス(下地毅代表取締役社長)は7日、車いす利

用者を対象にしたユニバーサルデザインの服を発表した。他社とも協業したプロジェクト

で、機能性とファッション性を兼ね備えているのが特長だという。今回製作したのはコートやジャケット、ズボン。ファスナーやボタンを活用し、寝たままでも着脱できる機能性を持たせた。

飛沫と幾何学的な三角のモチーフを組み合わせた柄の生地を製作。光が当たると反射するなどファッション性も兼ね備えている。ファッションブランド

「ナノ・ユニバース」のデザイナーらが担当した。福祉分野のロボット開発を手掛けるオリイ研究所(吉藤オリイ所長)や一般社団法人

W I T H A L S (武藤将胤代表理事)とも連携した。服は11月24日にW I T H A L Sが主催する音楽イベントで披露されるという。

シルスチュアートやマーガレット・ハウエルなどのブランドを展開するT S Iがユニバーサルデザインの服を作るのは初めて。同日の会見で下地社長は「野心的なプロジェクトであり、マーケットにもインパクトがある。知見を高めていきたい」などと述べ、長期的にはビジネスとして取り組む可能性を示した。(鮫島隆紘)